

地域特性を活かした街路樹育成管理手法の構築と 展開可能性に関する研究

-滋賀県高島市マキノ地域のメタセコイア並木における協働型管理の変遷と効果-

Study on construction and feasibility of street tree growth management method
utilizing regional characteristics
-Transition and Effects of Collaborative Management for Roadside Tree planted
Metasequoia (*Metasequoia glyptostroboides*) in Makino Area, Takashima City, Shiga
Prefecture-

川口 将武 (Kawaguchi masatake)

1. はじめに

道路空間は、都市・地域空間の骨格をなし、多くの人々が利用することから、適切な緑化によって道路空間自体の価値を高めるとともに、緑化自体が地域の価値を向上させる貴重な共有財産として位置づけられている（飯塚ら、2016）。これら道路空間の緑化は、我が国の公園緑地を構成するものとして、防災機能や景観形成機能などからなる存在効果、レクリエーションや休養等の保健休養機能などからなる利用効果や、道路空間を媒介に育まれる文化・交流機能やコミュニティ形成機能などからなる媒体効果まで期待され、それらを様々な主体が関わることによる協働によって実現することが求められている（小野ら、2021）。特に、近年においては、観光や賑わい創出といった経済活動に資する機能も道路空間の緑化に求められていることから、行政や地域住民に加えて事業者の協働への参画やその方法に関する知見の蓄積が必要となっている。

そこで本研究は、滋賀県高島市マキノ地域のメタセコイア並木における協働型管理の変遷と効果を整理し、メタセコイア並木の利活用方法を把握することで、行政、地域住民とともに事業者を含めた協働による道路並木を活かしたまちづくりの知見を得ることを目的とした。

2. 研究の方法

2. 1 研究対象地

本研究の対象地は、滋賀県高島市北部に位置するマキノ地域のメタセコイア並木である。メタセコイア並木は、滋賀県道 287 号線沢交差点から北約 1.5km の三叉路から北牧野集落の南までの全長約 2.4km に 540 本植樹されたものである。北ゾーンは北牧野集落から南牧野集落までの延長 0.6km、メタセコイアが 100 本の並木で、その横断構成は、車道 7.5m、東側にのみ歩道が設置されている。沿道は水田を中心とする農地である。一方、南ゾーンは南牧野集落から先で示した三叉路までの延長 1.8km、メタセコイアが 440 本の並木で、その標準的な横断構成は車道 7.5m、並木の植樹帯 6.0m、歩行路 2.5m、沿道は果樹園となっている。その沿道の果樹園には栗、ブドウ、サクランボ、ブルーベリーなどが作付されており、これらの収穫体験ができる観光農園となっている。なお、南ゾーンの一部に歩行路が未整備の区間もある（図 1）。

2. 2 調査方法

本研究では、メタセコイア並木の整備および並木の機能や効果の歴史の変遷と育成管理体制を調査するために、Web・文献調査およびヒアリング調査を行った。Web調査は「マキノのメタセコイア並木を守り育てる会」(以後、守り育てる会)の構成団体や連携会社等の公式Webサイトから相互的に記述内容を確認して、情報を整理した。加えて文献調査は、マキノ町誌(1987)や滋賀県地誌(1997)、マキノピックランド周辺整備構想報告書(2017)、守り育てる会の会報紙「並木便り」(2011~2022)、マキノ地域に関わる学術研究等(1987~2019)を収集すると共に、新聞記事データベース¹⁾を利用して情報収集、整理をした。さらに、ヒアリング調査は、整理した情報の確認および不明な点を明確にするため、ピックランド支配人兼守り育てる会事務局のK氏、及び高島市総合戦略課に質問票を事前にメールで送り、回答文書を元に2020年10月~2022年5月の間に計7回実施した。

3. 研究の結果

3. 1 メタセコイア並木の機能や効果の歴史の変遷

メタセコイア並木の機能や効果の歴史の変遷について、メタセコイア並木及び沿道とマキノ地域に分け、メタセコイア並木に関わる空間的整備やそれらと関係する管理主体、取り組みや出来事から時代区分として整理した。

1) メタセコイア並木整備期

1970年代中頃~1990年代初頭に台風被害の復興に際して、従前のポプラ並木に代わってメタセコイア並木が植栽され、整備された時代であることから、メタセコイア並木整備期といえ、この時期のメタセコイア並木は、防風および景観形成機能を果たす存在効果が発現し、観光といった利用効果の基礎が築かれた時代であったといえる。

2) メタセコイア並木注目期

1990年代中頃~2000年代はメタセコイア並木注目期といえ、防風および景観形成を目的とした存在効果から、地域外から観光対象として注目され、その利用効果を地域内が認知し対応しはじめた時期であった。

3) メタセコイア並木シンボル期

2010年代初頃~2020年代はメタセコイア並木シンボル期といえ、整備期の防風および景観形成を目的とした存在効果を基盤に、注目期の地域内外から四季景観を目的とした観光およびそれを受け止める協働型の体制構築といった利用効果を経て、経営側のコミュニティ形成機能や商業施設や土産物商品の開発といった賑わい形成機能、地域の歴史を継承する教育・文化交流機能や、それらを存在効果の持続に還元する仕組みの構築など、多くの媒体効果が発現した時期であった。

3. 2 メタセコイア並木の育成管理体制および利活用方法

図2は、メタセコイア並木の保全育成に関わる主体の関係性と活動内容を示している。

所有および管理主体の基本的な構成を見ると、北ゾーンのメタセコイア並木は滋賀県が県道道路並木として所有・管理し、南ゾーンのメタセコイア並木は果樹生産組合が果樹園地内並木として所有・管理している。前者にはマキノ高原の管理者であるマキノ高原観光が、

後者にはピックランドの指定管理者である果樹生産組合が協働管理に参画しており、加えて両ゾーンを対象に守り育てる会が協働管理や関連活動に関わっている。守り育てる会は、マキノ地域の地域観光事業者や観光振興団体、マキノ町JA、高島市商工会といった「産」の団体、高島市、滋賀県といった「官」の団体、メタセコイア並木周辺の5集落といった「民」の団体に構成されている。

管理作業を見ると、北ゾーンは、滋賀県が剪定や側溝清掃といった一般的な道路維持管理を行うと共に、マキノ高原観光も剪定や除草といった維持管理作業を補助している。南ゾーンは、果樹生産組合がメタセコイアの自然樹形を保ちつつ、みどりのトンネルを形成することを目標に、約10年に一回の大規模剪定を行っている。北ゾーンの剪定に際しては、守り育てる会の構成員である果樹生産組合が剪定業者への指導・助言を行なっている。

管理費の創出に関しては、ピックランドの施設内でのメタセコイア並木のオリジナルフォト額付、フォトカード、ジオラマやクリアファイルなどの土産物の開発・販売²⁾、守り育てる会による写真コンテストの入選作品を利用したポストカードの制作と販売、寄付金箱で得た寄付金やフルタから高島市への寄付金³⁾があり、これらの一部がメタセコイア並木の維持管理に活用されている。

4. おわりに

本研究の結果として、メタセコイア並木の機能や効果の歴史的変遷は、メタセコイア並木整備期、注目期、シンボル期の3時期に区分することができた。1970年代中頃～1990年代初頭の整備期は、防風および景観形成機能を果たす存在効果を確立する時期であった。続く1990年代中頃～2000年代終わり頃の注目期には、地域外から景観が注目され、それを核とした観光といった利用効果も加わった。これを支える協働型管理としては、地域の住民団体やボランティア団体をはじめ、観光関係の民間事業者が加わり、利用効果を発現させていた。更に2010年代以降のシンボル期には、メタセコイア並木をモチーフとした土産物や商品開発がなされ、見に来るという直接的な観光に留まらず、様々な賑わいの創出がなされている。この時期には、守り育てる会を構成する団体が設立され、注目期やシンボル期に設立された産・官・民の取り組みを北ゾーンと南ゾーンにまたいでつなげ、メタセコイア並木全体の協働型管理を支えるコミュニティ形成に至り、賑わい創出や文化・交流機能とあわせて媒体効果が発現したといえよう。

このような媒体効果の発現の要因としては、メタセコイア並木全体の活動に資する守り育てる会が設立されたことと、賑わい創出の収益をそこに還元し、メタセコイア並木の存在効果や利用効果を基盤にその仕組みがつくられたことにあると考えられる。1事業としての成功事例は各地にあるものの、広域的な観光に資する規模の緑化空間に、多様な主体が自らの事業と並行して協働型に関わり、一定の組織や運営のまとまりが形成されたことは特長的である。所有や管理の状況は異なるが、各地で目指されている街路樹による商業地域の活性化などにも、本事例の知見が参考になると思われる。

謝 辞

本研究の遂行にあたり、守り育てる会事務局マキノピックランドとマキノツーリズムオフィス事務局、高島市総合戦略課の方々にヒアリング調査及び資料提供などのご協力を頂いたことに感謝致します。また、本研究は大阪産業大学デザイン工学部浜野恒好氏の卒業研究成果を基に、大幅な加筆修正をしています。

補 注

- 1)朝日新聞社「聞蔵Ⅱビジュアル」と読売新聞社「ヨミダス歴史館」の新聞記事データベースを使った。何れも2022年5月15日に、マキノ and メタセコイアのキーワードで検索した結果、69件と71件がヒットし全記事を確認した。
- 2)2020年度時点で企画中的のものも含めて36種類の商品があり、お菓子(8種)やお酒(1種)の食品系と、インテリア類(24種)、ファッション(1種)や文具(2種)といった物品系のものがある。
- 3)フルタは、その売り上げの3%を高島市に寄付している。限定商品の販売実績と寄付金額は、2021年度までの約6年間の販売実数として218,304箱、売上額125,376,000円であり、寄付総額3,761,280円となっている。

成果の公表

川口将武, 加我宏之, 赤澤宏樹: 滋賀県高島市マキノ地域のメタセコイア並木における協働型管理の変遷と効果, 環境情報科学論文集 36, 32-37, 2022年12月

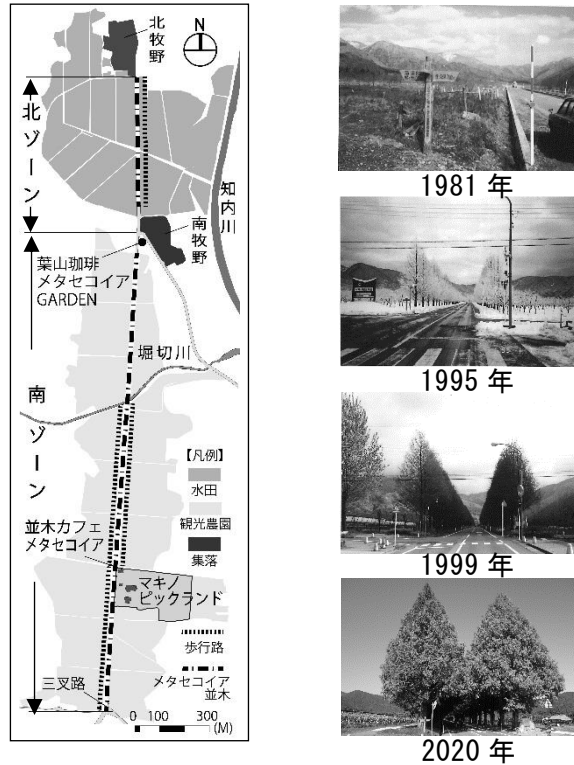


図1 研究対象路線図と景観

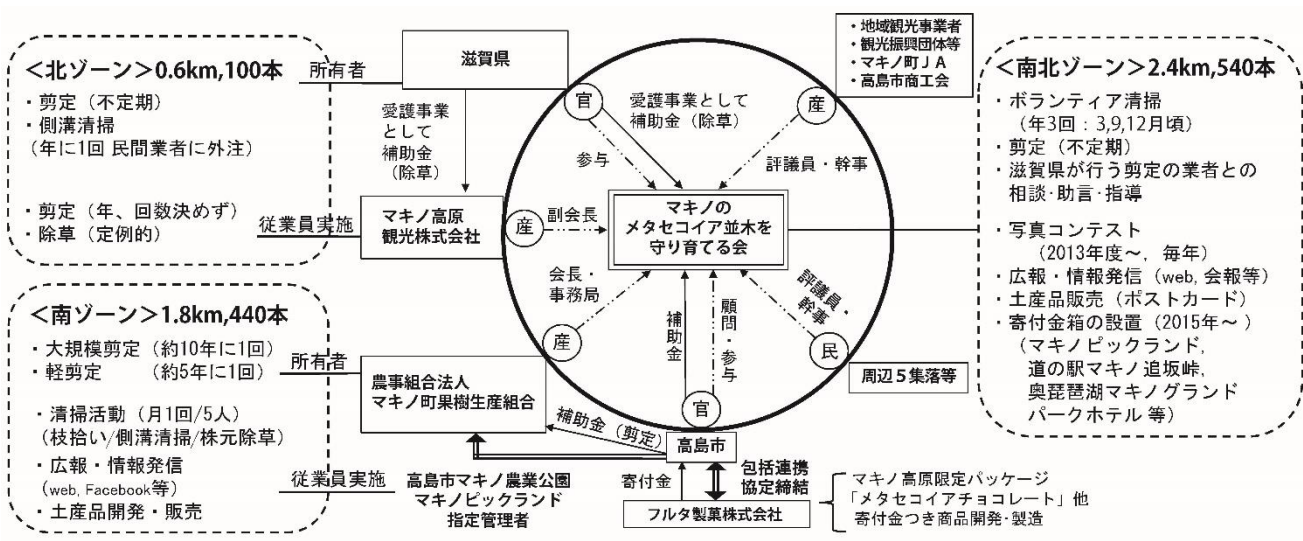


図2 メタセコイア並木の育成管理の組織体制とそれらの活動内容